

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月29日(火) 一回戦

Hコート 第1試合 本庄総合公園体育館(シルクドーム)

チームA		12 - 26 10 - 20 11 - 26 9 - 21	93	チームB
倉吉北	42			東海大第三
鳥取				長野

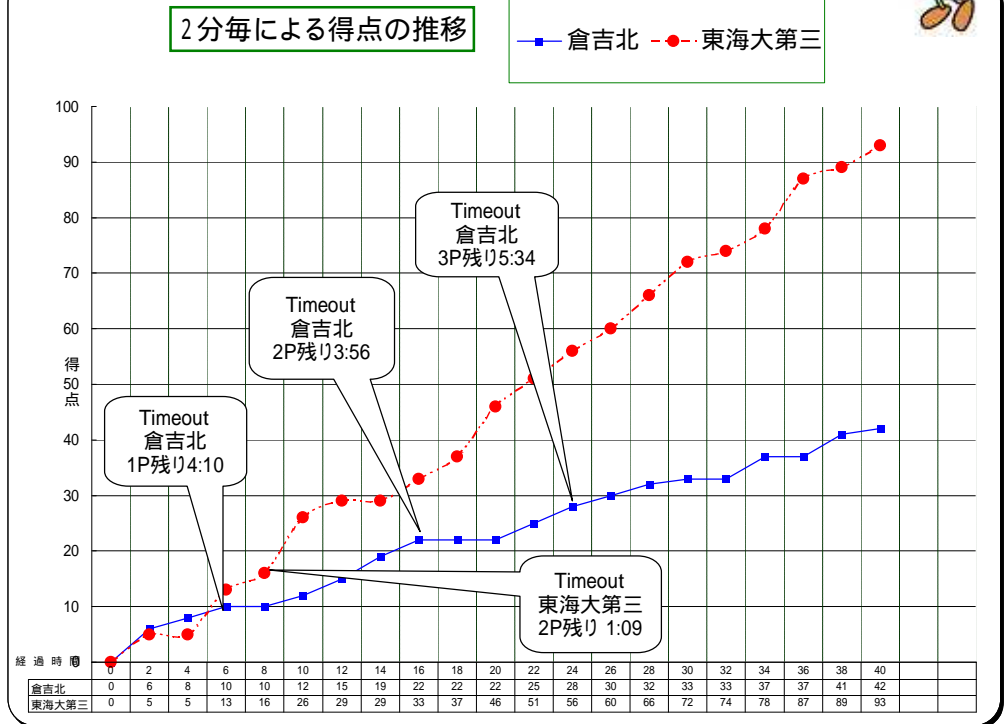
倉吉北

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	小谷 瑠奈	X	10	2	9	1	9	2	4	0	1	4	6	2	1	0	39
5	小原 佳奈	X	6	0	0	1	3	4	6	1	0	6	3	2	0	0	32
6	三谷 梓沙	X	9	0	0	2	12	5	10	2	2	2	6	1	1	2	40
7	西原 彩華	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
8	和田 理紗	X	4	0	0	1	3	2	2	1	1	3	2	0	1	0	15
9	山田 美咲	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10	西村 美香	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
11	武内 麻里子	X	5	0	3	2	5	1	4	5	1	4	13	3	3	0	34
12	中村 千聖	/	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	2	1	0	0	8
13	山田 留衣	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	5
14	豊田 千尋	/	8	0	0	3	4	2	2	3	2	0	1	2	0	1	14
15	伊賀 真理江	/	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
コーチ	穴戸 正郎									0	2	18					
出場: ×は先発、/は出場		42	2	13	10	39	16	28	13	10	39	35	13	6	3		200
確率		15.4%		25.6%		57.1%				計	49						

東海大第三

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	松岡 靖香	X	2	0	0	1	3	0	0	3	0	0	1	1	3	0	17
5	岩原 菜紀	X	18	3	6	4	6	1	2	2	0	5	1	1	4	1	19
6	丸山 詩恵	X	10	0	0	5	9	0	0	3	2	5	5	1	0	0	19
7	大輪 紗希	X	15	1	1	6	12	0	0	3	2	6	2	2	2	0	24
8	上原 ともよ	X	8	2	6	1	5	0	0	0	1	0	2	5	2	0	19
9	臼井 奈津	/	0	0	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
10	宮坂 侑里	/	8	0	1	3	5	2	4	2	2	2	2	1	0	0	10
11	小口 由希子	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
12	飯島 早紀	/	17	1	2	7	14	0	1	0	9	2	5	4	3	1	28
13	島崎 未来	/	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	4	4	0	23
14	久保田 早紀	/	13	2	10	2	7	3	4	3	1	3	2	2	4	0	26
15	鈴木 襟香	/	2	0	0	1	2	0	0	2	1	2	0	0	0	0	6
コーチ	有賀 正秋									0	2	10					
出場: ×は先発、/は出場		93	9	31	30	65	6	11	20	20	35	20	21	22	2		200
確率		29.0%		46.2%		54.5%				計	55						

2分毎による得点の推移



戦評

16年連続出場の倉吉北とゴール下の高さで上回る東海大第三の対戦は、両チームともにハーフコートマンツーマンで始まる。第1P、東海大第三はセンター#6丸山にボールを集めるが、倉吉北の厳しいダブルチームでボールを奪われ苦しい流れに、しかし#5岩原の3本の3Pで流れを引き寄せた。倉吉北は#6三谷のシュートで反撃。12対26で東海大第三リードで終了。第2P、果敢に1対1を仕掛けるが固い東海大第三のディフェンスに阻まれる。残り3分、倉吉北はタイムアウトを取り、1-2-2ゾーンにチェンジするが、東海大第三の巧みなパスワークと、残り1.9秒、スローインからの得点で22対46、東海大第三がリードを広げ後半へ。第3P、両チーム、マンツーマンディフェンスでスタート。東海大第三#6丸山の連続得点で流れを掴む。倉吉北はドライブインからファウルを得るも、シュートがリングに嫌われ得点が伸びない。東海大第三はドリブルに対する厳しいディフェンスからボールを奪い速攻を決め33対72、東海大第三のリードのまま最終ピリオドへ。第4P、点の入らない倉吉北は攻撃の起点となっていた#11武内が残り3分でファウルアウト。東海大第三はディフェンスからの速い展開で#10宮坂のドライブインが連続して決まり、点差を広げて42対93で東海大第三が勝利を収めた。

主審 坂本 信教

副審 目 ひとみ

戦評 若田 博 (埼玉県高体連)